

2025 年度(第55回)

**高崎山生息ニホンザル**

**B・C 2 群に関する**

**個体数調査報告書**

## 1. 調査期間

・調査準備	.....	11月1日	～	11月19日
・調査期間	.....	11月20日、21日、22日、25日、26日 11月27日、28日、29日		
・資料作成	.....	11月19日	～	12月8日
・報告日	.....	12月23日		

## 2. 調査員

(大分市)

浅野 晃	木本 智	藤田忠盛	村田美由紀	下村忠俊
菅本夕子	佐藤恭子	嵯峨由朗	二宮 惇	後藤直人
奥詰貴史	大槻高嶺	高橋航平	中村優人	宮川祐治
足達琢磨	佐藤光伸	小野貴宏	佐藤真也	後藤大地

(ボランティア)

赤嶺博美	有田美恵	五十川育子	小川文子	小川勇一
上永智聖	後藤尚子	佐藤久美子	重清智子	城 よしこ
段 みどり	戸田 太	戸田美智子	富嶋正晶	野田謹行
野田洋子	林 仁美	松井 修	宮崎仲子	

(大分市教育委員会)

栗田博之	久保賢太郎
------	-------

## 2025（令和 7）年度高崎山 B・C 群個体数調査結果について

2025（令和 7）年度も例年とほぼ同時期の 11 月 20 日、21 日、25 日、26 日、27 日の 5 日間において、市民ボランティア 19 名の協力を得て B 群の調査を行った。

また、C 群については、その出現に合わせ、11 月 22 日、25 日、26 日、28 日、29 日の 5 日間に行った。

調査方法は、B 群については、山からサル寄せ場に出現するルートの垂直方向に職員等で構成される調査員を一行に配置し、調査員の間を通過するサルの年齢・性別を記録していく「行列カウント法」で実施した。C 群については、ルート上に調査員を配置させるとサルが警戒してルート上を通過しなくなることから、調査員の代わりにビデオカメラを設置し、ビデオによる頭数確認を行った上で、サル寄せ場に出現した際に、年齢・性別の内訳を調査員 1 名が記録を行った。

その結果、B 群 514 頭、C 群 246 頭、計 760 頭であり、昨年比は、B 群 70 頭の減少、C 群 55 頭の減少、総数 125 頭の減少となった。出産数は、B 群 42 頭、C 群 32 頭、計 74 頭であり、出産率（出産数/5 歳以上の雌数×100）は、B 群 21.3%、C 群 30.5%、2 群計 24.5%（昨年 43.1%）であった。出産率は高低を交互に繰り返す傾向があるため、2020～2021 年度、2022～2023 年度、2024～2025 年度、2 年ごとの合計出産率をみると、B 群では 37.7%、34.6%、32.5%と推移し減少していることが分かった。C 群では 36.6%、41.5%、37.2%と推移した。

B・C 群の 2 群総数の減少は、2025 年出産数が昨年と比較して B 群 41 頭、C 群 32 頭減少したことと、両性からなる 30 頭ほどの集団と 20 頭ほどの若いオス集団が調査ルート上を通過していなかったことが主な要因と考えられる。

昨年の課題でもあった C 群の調査に関しては、調査員がルート上に入らずビデオによるカウントを行い、内訳についてもルート上ではなく C 群がサル寄せ場に出現するポイントを少数による確認を行うことで C 群のサルに警戒されずに年齢・性別の判定を行うことが出来たことは大きな改善であった。

今後も両群の動向及び個体数・出産率の推移を注視していきたい。

高崎山2群個体数(2025)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5～7歳	8歳以上	8歳以上のうちの24歳以上	計
B	38	76	79	63	45 (♂ 4 ♀ 41)	74 (♂ 5 ♀ 69)	139 (♂ 11 ♀ 128)	9 (♂ 1 ♀ 8)	514
C	19	44	35	22	16 (♂ 0 ♀ 16)	22 (♂ 1 ♀ 21)	88 (♂ 4 ♀ 84)	0 (♂ 0 ♀ 0)	246
計	57	120	114	85	61 (♂ 4 ♀ 57)	96 (♂ 6 ♀ 90)	227 (♂ 15 ♀ 212)	9 (♂ 1 ♀ 8)	760
2024 (R6)	143	101	113	116	60 (♂ 14 ♀ 46)	90 (♂ 9 ♀ 81)	262 (♂ 14 ♀ 248)	6 (♂ 0 ♀ 6)	885